

【提案者】北海道夕張市

【タイトル】持続可能な地域社会の構築と地域エネルギーの有効活用による元気創造の取組み

急激な人口減少、地域が点在する非効率な都市構造を持続可能なマチとするべく「まちのコンパクト化」を基本方針に定める一方、地域の元気創造の起爆剤としてC B M（炭層メタンガス）の開発を促進し、地域活性化、人口減少の抑制に挑み、全国のモデル都市へ

コンパクト化

これまで、小学校6校、中学校3校の統合など、他の自治体では類のない取り組みを実施。今後も都市機能の集約化を更に加速させる。

コンパクトシティの進め方のイメージ

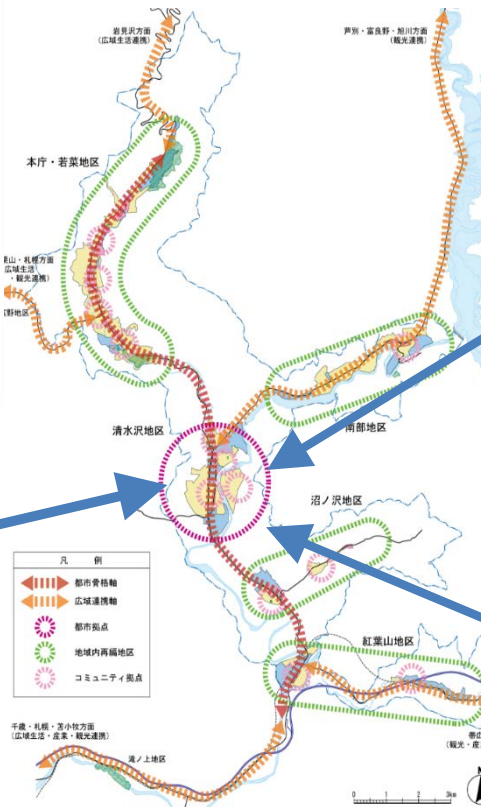
【将来都市構造へのプロセス】 将来都市構造への再編は、概ね20年程度かけて段階的に行う。



一 将来の都市拠点（清水沢地区）の特徴一

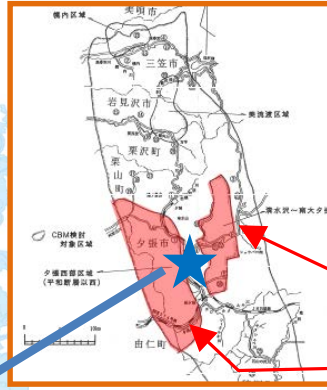
- 全世帯の約4割が居住
- 小中学校、高校がある。
- 老朽市営住宅が多く建替えを促進
- 工業団地がある。
- 地形は比較的平地
- 交通網が充実
(JR線、国道452号線)
- 再開発可能な市有地が34ha
(うち清陵地区は25ha)
- **C B M国内開発最有力地**

【将来都市構造図】



C B M開発

C B M資源は将来の都市拠点の地下に多く存在する。今後は民間企業との連携による開発を促進し、地元企業や農家への安価なエネルギーを供給し、雇用の維持、創出を目指す。



夕張市内のC B M推定資源量は77億m³で、夕張の全世帯(5,600世帯)の1,500年分のエネルギーに相当する。

	清水沢～南大夕	夕張西部
面積 km ²	40	32
埋蔵炭量 億ト	5.3	2.8
C B M資源量 億m ³	50.4	26.6

C B Mの地産地消のイメージ

